

令和3年度 東北地区高等学校PTA連合会 広報紙コンクール 外部審査委員講評（全体）

福島民報社 事業局長 関根英樹

コロナ禍の中で、東北六県すべての高校のPTA会報担当の皆さんも大変な苦勞をされであろうことは想像に難くありません。そのような状況下でも、各県で選ばれた会報はそれぞれ工夫を凝らし、興味深い企画が数多くあり、高いレベルの内容になっていました。審査委員の皆さんも評価に頭を悩ませたと思われまます。

最近の会報はかつてのような大きな紙面で伝える形ではなくなってきました。数年前までは、学校ごとに紙の大きさも形もバラバラでしたが、今回、東北地区の審査会に出てきた会報はほぼA4版カラーで8ページから16ページぐらいの間に収まっていました。背景には、印刷会社が編集しやすく、保存に適した大きさになってきたこともあるでしょう。多様化しているようで実は画一化している時代の流れでもあると思います。

それでは、今後評価される会報はどのようなものとなるのでしょうか。重要なのはPTA会報が果たすべき目的と役割を改めて意識することだと思います。PTA会報の目的は、保護者が知りたいと考えている子ども達の学校での様子を保護者の視点からわかりやすく伝えるとともに、子ども達のために保護者がなすべきこと、できることの情報を共有できるように示すことにあると推察します。すると、おのずから求められるべき会報の形が見えてくるのではないのでしょうか。

私は新聞社に勤めておりますが、新聞を発行する際に大切な視点は、その日のニュースの中で何が誰にとって重要なニュースであるかの価値を見極め、それを分かりやすく正確に伝えることにあります。PTA会報の場合も、誰のための何のための会報かという原点を常に意識することが重要です。審査基準の最初の項目に「保護者の思いを伝える」が据えられているのもそのためでしょう。

今回の会報をみると、PTA会報というより、生徒が作る学校新聞や学級新聞、学校が作る学校要覧や卒業アルバムのように見えてしまうものもありました。PTA会報が目指すべき内容とは若干異なるのではないのでしょうか。また、限られた紙面に効率よくできるだけ多く情報を入れなければいけないのに、イメージだけを重要視し、無駄に紙面を使っているケースもありました。大きな紙面の中に様々な記事が載っている新聞の場合は、全体と見出しを見渡すことで、紙面の内容を大きく把握することができましたが、雑誌のような形式になった場合は、扉のページにこの会報の中身について指標を置くことも重要かもしれません。さらに、コロナ禍の中で活動が難しかったのかもしれませんが、PTAの活躍をもっと紙面化して多くの保護者に知ってもらい、参加を促す内容が少なくなっている気がします。

教育カリキュラムの改変や少子化による学校の統廃合など、高校を取り巻く環境は大きく変わるかもしれません。しかし、生徒がいれば、そこには必ず子ども達を慈しみ見守る保護者と教師がいます。今後も各PTAの皆様には、保護者と教師が未来に向かって歩む生徒をしっかりと応援していくための会報作りを心がけて頂きたいと思います。